

皮膚癢痒症

監修／島根県斐川中央クリニック 院長 下手 公一

症状と所見

処方

比較的体力がある(実証)

のぼせ、イライラ、不眠

黄連解毒湯

便秘、口渇、腹部膨満感、尿量減少傾向

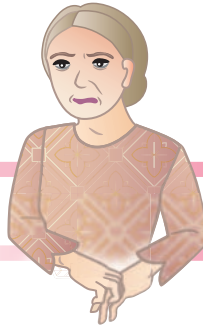
茵陳蒿湯

分泌物が多い化膿性湿疹

消風散

残尿感、とくに陰部癢痒症

竜胆瀉肝湯



体力は中程度(中間証)

のぼせ、口渇

皮膚の色つやが悪い

温清飲

発汗

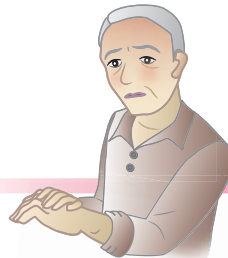
白虎加人参湯

発赤を伴い、分泌物が多い慢性湿疹

十味敗毒湯

分泌物が多く、便秘を伴う

治頭瘡一方



体力がない(虚証)

夜間頻尿、排尿困難、口渇、腰痛、四肢の冷え

八味地黄丸

高齢者で皮膚が乾燥して、夜間に痒い

当帰飲子



1 point ワンポイント・アドバイス

皮膚癢痒症の原因の多くは、加齢による皮脂欠乏症で、入浴時に石鹸を使って擦るとかえって悪化するため、治療に先立ち、入浴方法などの生活指導が重要となります。ステロイド外用薬の使用は避け、入浴後の皮膚の保湿をはかることも重要です。

老人性皮膚癢痒症では地黄剤が主体となり、基本処方温清飲と当帰飲子です。